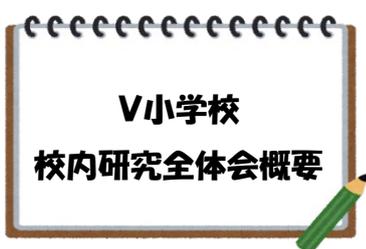


校内研究活性化プロジェクト研究通信

第8号 令和5年(2023年)10月6日発行

晴れやかな秋空が広がる季節となりました。実践校のみなさんにおかれましては、運動会や体育祭、文化祭などの学校行事にも尽力されていることと思います。プロ研通信第8号では、9月20日(水)に開催されましたV小学校の校内研究会の様子をお伝えします。

今回のV小学校での校内研究会を参観させていただくにあたり、授業者のA先生には事前と事後にインタビューをさせていただきました。研究授業と研究協議を通してA先生が学びを進められている様子や参観者の先生方の学び、校内研究主任の学びをお伝えします。



V小学校 研究主題

「読む力」から「読み解く力」へ
～ハキハキ・スラスラ・正しく読もう～

注目ポイント

- ・授業者の学びと実践のつながりに着目した校内研究会
- ・授業参観で「個別最適な学び」を進める先生方



校内研究会の流れ

1. 授業者より本授業に関わって
2. グループ協議
3. 全体交流
4. 指導助言

今回、V小学校の校内研究会では、「1」「2」「3」の3グループに分かれて研究協議が行われました。

V小学校の研究協議では、参観者がA先生の課題やこれまでの学びを基にして協議できるようにテーマが設定されていました。協議のテーマは以下の2点でした。

- ①対話によって児童の考えは深まったか。
授業者の指示やワークシートなどの支援は、対話を促すものになっていたか。
- ②導入の工夫によって子どもの興味・関心を引き出すことができていたのか。

また、協議にはマトリクス法が用いられ、参観者が「子どもの実態」と「教師の手立て」に焦点を当てながら意見を交わすことができるように工夫されていました。子どもの学びの姿に焦点が当たることにより、「〇〇さんの△△という発言は…」や「□□さんと◇◇さんの対話では…」のように、授業者の講じた手立てと子どもの学びのつながりを意識した協議が活発に行われました。

	児童の実態		教師の手立て	
良い点	子ども同士のかかわりが多く見られた	学習規律が整っていた	交流の時間がたっぷり先生の関わりも多い	困っている子への関わり
改善点	相手の説明に深くつっこむ	叙述を基に自分の考えを	グッとポイントとキャッチコピーの違いは?	相手意識をもてる工夫が必要
共通の取組				

「2」グループのマトリクス
(使用されたものを基に研究員が整理)

以下に紹介させていただくのは、「2」グループの研究協議の一部です。

※発言の内容を研究員が整理して作成

児童aと児童bの対話をよく聞いていたら次のようなやり取りがされていました。

児童a「僕の『グッとポイント』はこれです」
児童b「理由は？」
児童a「直感です」

児童aは理由をうまく話すことができませんでした。しかし、児童aは自分のグッとポイントの根拠となる叙述を付箋にいくつか書いていたので、続けて次のようなやり取りがされました。

児童b「付箋見せて。一緒に考えよ。」
「ここを選んでいるということは、こういうことじゃない？」
児童a「そうか、ありがとう！」

児童aは、そう言って付箋に理由を書き加えていました。

二人の学びの姿はとても印象的でした。児童aは児童bと話すことで考えが整理され、自分の考えの理由を書き出すことができました。児童同士の対話による学びの深まりが見られてよかったです。

児童cを、1時間を通して観察していました。児童cが児童dと交流していた時のことを話します。児童dは授業中によく発言をする児童で学力が高い児童なのですが、二人の交流は「グッとポイント」を説明するだけのものでした。叙述を基に交流をしているが、自分の考えの根拠とは言えない。読んで分かることを相手に伝えているだけでした。その交流で学びを深めるのは難しいと思います。「グッとポイント」を相手に伝えているので、自分が感動した理由を話せるとよかったなと思いました。



「2」グループの協議の様子

私が見たペアは、学びが深まったと言うよりは意見がいっぱい出てきてしまって、キャッチコピーを作るのにどれを使えばよいのか迷っている感じでした。最初に教室中央の後方でペアになっていた二人は、付箋に書いていることはたくさんあるが、「それ、かわいい」「いいね～」で交流が終わっていたので学びの深まりはなかったと思います。「あれあったよな」「これあったよな」というような確認になっているペアもありました。

交流の時間が十分に確保されていたので、A先生が児童と個別に関わることができていました。児童eと児童fのペアでは、A先生の「eさん、理由がわからないんだけど」「教えてあげて」「なぜそう思うのか聞いてみよう」というような支援があり、児童eは児童fと一緒に「ここにこういう風に書いてあるからそうやって考えたんじゃない？」と話し合うことができていました。このように、考えを掘り下げることができたペアは学びに深まりが出たと思います。子どもたちの現状を見ているとやはりそのようなところにまだまだ支援が必要なのだなと思いました。児童だけで、学びを深めるのはとても難しいなと感じました。

どのグループの先生方も児童名を挙げながら、具体的に子どもの学びの姿を語っておられました。上記3名の先生方のコメントの中だけでも3ペア6名の児童名が出てきています。具体的に子どもの学びの姿を見取ることによって授業者の講じた手立てが効果的であったか、また改善点がどこにあるのかが明らかになってきました。子どもの学びの姿から先生方が学ぶ、実りある協議の場となっていました。



研究員 しまうち ゆうしょう 島内 佑祥

V小学校教員へのインタビュー

今回は授業者のA先生、10月23日(月)にV小学校の校内研究授業をされるB先生、B先生と同じ協議グループで活発に意見を交わしておられたC先生の3名にインタビューをさせていただきました。

<質問①>御自身の課題を具体的に教えてください。

私の課題は、「学力差のある学級で学習に対する理解を促すために、子どもたち同士の活動(対話・学習)を仕組むこと」です。

<質問②>今回の研究授業や事後協議からどのような学びを得られましたか。

今回は、ペアの中で「助けてい」とか「助けてもらいたい」という気持ちあまり出なかったので、ペアづくりが上手くできていなかった。「助けてもらいたい」という気持ちは、全然恥ずかしいことではないということをこれから伝えていかなければならないと思います。自分から発信できる授業づくり…じゃないですけど、交流できる雰囲気をつくらなければならないなと思って、明日からはどんどん発信していくんだよということを思っているだけじゃなくて伝えていこうと思います。



A先生

<質問③>課題解決に向けて、今後どのように学びを進めていこうと考えていますか。

学習に向かうことがなかなか難しい児童にもできることは絶対にあるので、児童がそれを見つけられる力を身に付けられるように指導していきたいです。また児童自身が、何ができて何が苦手なのかということもあるのですが、「何を学びたいか」は絶対にもっていると思います。その思いと教師の付けてほしい力が近ければ近いほどお互いよいと思います。そこを近づけさせることができる技術…じゃないですけど、授業力の向上や子どものことを知るということが大事なのだろうなと思っています。

<質問①>御自身の課題を具体的に教えてください。

私の課題は、「子ども同士のつながりを強める」ことです。子ども同士のつながりはなかなか築けていないと感じていて、築けることによって子ども同士で助け合ったり、問題を解決したりできるようになると考えています。

そのために、2学期に入ってから子ども同士が会話する機会をたくさん設けていこうと思っています。例えば、朝の会でお題に沿って子ども同士で話す取組をしています。現在は隣の席同士で行っているのですが、いろいろな人と話してほしいという思いがあるので、席順をずらして違う子どもと話す機会も設けたいと思っています。その中で一方的に話すのではなく、質問をしたり思ったことを返したりすることもできるように少しずつ取組を発展させていきたいと考えています。



B先生

<質問②>今回の校内研究会でどのような学びを得られましたか。

印象に残っているのは、子ども同士で積極的に話し合いをしていたところです。子ども同士のつながりができているからこそできたことだと思います。A先生の授業の中では子どもたちがやってみたいと思えるような課題を設定されていたので、子ども同士で協力して学習に取り組んでいたのだなと思います。

教材研究を通して何を教えようとしているのかを明確にし、子どもたちがやってみたいと思える課題設定をしていくことができればよいと思っています。

<質問③>御自身の課題に向かって今後、どのように学びを進めていこうと考えていますか。

子ども同士をつながり築いていく上で活用できそうな手段を学んでいきたいです。「〇〇が絶対に正しい方法だ」というものはないと思いますので、対話だけではなく、様々な手段を知り、今、目の前にいる子どもたちにどの手段がっているのか見極めて活用できるようにしていきたいと思います。本を借りたり、同僚の先生に話を聞いたりして学びを進めたいと思っています。

<質問①>御自身の課題を具体的に教えてください。

子どもが主体となって、「やってみたい」「やった」と思えるような授業を仕組みたいです。今年度は書写と外国語を担当しているのですが、いつも放課後にどうすれば子どもたちが楽しめるかなと考えています。しかし、実際に子どもたちが動くとどのようにやればいかわからなくなる場面があったり、私自身の思いと異なるものになってしまうことがあったりして、日々反省しています。なので、私の課題は子どもが自分たちでどんどんやっていけるような授業を仕組みることになることです。



C先生

<質問②>今回の校内研究会でどのような学びを得られましたか。

今回の授業で一番思ったことは、すごく雰囲気がよい授業だったなということです。45分間子どもたちがのびのびとしていて、A先生もいてねいに子どもたちのことを見られていたと思います。

子ども同士の対話をメインに授業を組んでおられたのですが、大勢の先生方が参観している中でも子どもたちがしっかり対話できていたのが印象に残っています。また、A先生と子ども一人ひとりとの対話も印象に残っています。雰囲気のよさと、教師と子どもの対話について学ばせていただきました。

私は外国語の授業をしている時に、子ども同士のペア活動やコミュニケーション活動を「やってみよう！」と言った後、教科書をしまう指示をしてしまうことがあります。教師からの確かなタイミングで指示を入れることで子どもたちが学びやすそうにしている様子も今日見られたので、次の授業から生かしていきたいです。

<質問③>御自身の課題に向かって今後、どのように学びを進めていこうと考えていますか。

子どもが主体的に活動できる授業にしていくために、同僚の先生にたくさん聞きたいと思っています。インターネットで調べたりもしているのですが、よくわからないこともあります。それぞれの分野で、堪能な先生がたくさんおられるので、単元のゴールをどのようにすれば魅力的なものになるのかや、ねらった力を付けるためにはどのような活動を仕組むのかなどについて相談に乗っていただいています。この一年間、たくさん勉強させていただこうと思っています。

3名の先生方、突然だったにも関わらずインタビューにお答えいただきありがとうございました。3名とも校内研究会からの学びを整理し、御自身の課題に照らしながら話されているので、明日からの実践に生かしたいことと次なる課題の発見につなげておられました。今後、子どもたちとさらに学びを進められていくことを楽しみにしています。



研究員 島内 佑祥 しまうち ゆうしょう

校内研究主任へのインタビュー

研究委員(校内研究主任)の先生には校内研究会の後、3名の先生方へのインタビューを一緒に聞いていただいた後にインタビューさせていただきました。

<質問①>

本日の研究会を振り返り、よかった点と改善していきたい点を教えてください。

研究会の、グループでの協議は盛り上がり、それぞれのグループで活発に意見を出し合っているなと思います。しかし、グループ毎で協議したことをみんなつないで、最後に校内研究として、V小学校として一定の方向性を示してまとめるというところまでいくのがなかなか難しいなと感じています。研究授業を見てみんなが感じたことを出し合い、どのような意見が出るのかということはこちらがある程度想像することができても、授業の中で子どもの反応を予想することとは違い、予めまとめを用意することもできないので、まとめることまでできればよいなと思っています。もちろん最終的には個人の課題に対してどうしていくかということだと思うのですが、研究協議の成果をまとめることができれば、アップデートシートを書く時にも自分の課題に即して、視点を絞って書くことができるだろうと思います。そうすればより実りのある校内研究会になっていくのだろうと思います。



校内研究主任の先生

<質問②>

3名の先生方のインタビューを聞いて思ったことを教えてください。

単純に、私自身が先生方の課題と思っておられることを十分に把握できていなかったなと思いました。それを知らずにいたら、例えば、B先生の授業を見に行くというときに参観の視点を絞れないなと思います。課題などを知っておくのは大事なのだなと思いました。それを知っていることでアドバイスできることもあるかもしれないし、逆に学ぶことがあるかもしれないので、広く他の先生方にも知ってもらい、お互いに助け合いがしやすくなる環境を作っていければよいなと思いました。

<質問③>

教員一人ひとりの学びを促進するために校内研究としてできることは何だと思いますか。

それぞれの課題や強みを分かったうえで、職員室で相談するというのももちろんありだと思います。授業を実際に見に行き「このようにされているんだ」「自分にも使えそうだな」とか、授業を見に来てもらって「もっとこのようにしたらいいと思うよ」などの一言アドバイスをもらうというようなことを進めていくことができればよいなと思っています。ただ、その自由参観週間というのも時間的な制限もあってなかなか全員がいろんな人の授業を見に行くというところまでできていないので、それに代わるものというわけではないですが「放課後教室ツアー」を計画したいと思っています。

<質問④>

「放課後教室ツアー」とは具体的にはどのようなものなのですか？

例えば放課後にみんなで「今日は2年2組の教室に行こうか」というように教室に行きます。そこで、今2年2組の先生が力を入れていることであったり、最近やってうまくいった実践であったりを教室で実物(使用したもの)などを見せながら、「こんなことやったらうまくいったよ」や「この前子どもたちがこのような反応をして…」というような実践について話す機会を設ける取組です。実際に授業を見に行くことができなくても、力を入れていることやこんな風にすればいいんだということ、この先生こんなことが得意なんだということが見えてくると思います。このツアーを通して「この人の授業見てみたいな」と思うようになり、実際の参観につながっていくのかなという風に考えて計画しています。

V小学校の校内研究会の参観を終えて、研究員の思い

今回は、研究授業と事後研究会を参観させていただきだけでなく、事前・事後インタビューも実施させていただきV小学校の先生方には大変お世話になりました。先生方の「学び」に対する熱意や子どもたちへの思いに直に触れることで、校内研究を活性化させることの意義を改めて感じる事ができました。



A先生の授業の様子



「1」グループの協議の様子



「3」グループの協議の様子

A先生は事前インタビューの際に、「何度も何度も指導案を書き直し、それでもまだ悩んでいます」と仰っていました。その言葉から、御自身の課題の先に子どもの姿を見据え、よりよい学びの場を提供したいという思いが伝わってきました。V小学校の先生方にもその思いが伝わり、協議が熱を帯びたのだと感じました。

V小学校の先生方が校内研究を通して、生き生きとした表情で学んでおられる姿を参観させていただけたのがとてもうれしかったです。ありがとうございました。



研究員 稲益 圭吾



研究員 島内 佑祥